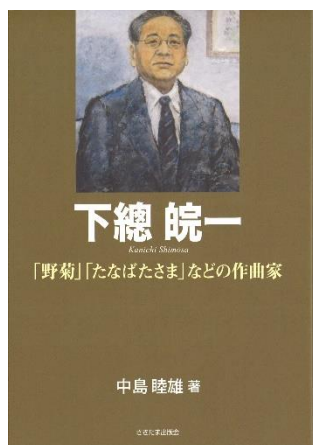


## 編集に携わった『下總皖一』が発売

● 1年間の成果、明日発刊予定！

私事ですが、私が編集に携わらせていただいた本がさきたま出版会のHPに掲載され、いよいよ明日発売の予定です。

「下總皖一「野菊」「たなばたさま」などの作曲家～もっと知りたい埼玉の人～」発刊予定



|      |               |
|------|---------------|
| 著者等  | 中島 睦雄         |
| 出版年月 | 2018年12月      |
| 版型   | A5判           |
| 頁数   | 96ページ         |
| ISBN | 9784878914539 |
| 価格   | 1,200円＋税      |

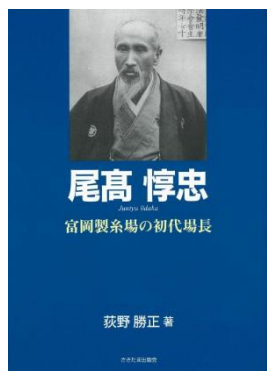
2018年12月20日発売

### ◇やっと刊行されることになりました

1年間をかけてまとめた『下總皖一 ～「野菊」「たなばたさま」の作曲家』が12月20日に刊行されます。あっという間の1年というか、長い1年でもありましたが、私自身初めて1冊の本を企画・執筆・取材・編集とさまざまな形で本づくりに携わることができ、良い勉強ができました。そんな1年を振り返ってみたいと思います。



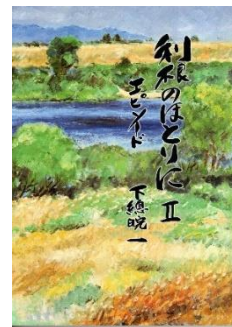
### ◇突然の依頼



昨年12月1日の浦高同窓会報「麗和」編集委員会の中で、先輩の星野和央さん（高4回、さきたま出版会会長）から、「今、こんな本を作っているんですよ。もっと知りたい埼玉のひとシリーズで、これが第1冊目。富岡製糸場の初代場長の尾高惇忠。この他にも埼玉には、高句麗からの

渡来人・高麗王若光、妻沼聖天の開基・齋藤実松、鎌倉時代の武将・畠山重忠、見沼田んぼを開いた井沢弥惣兵衛、国学者の塙保己一、日本の女医第1号・荻野吟子、日本近代経済の父・渋沢栄一、出版や貿易で万博開催に貢献した清水卯三郎、林学博士・本多静六、俳人の長谷川かな女、政治風刺漫画家の北沢楽天、そして童謡「たなばたさま」などの作曲家・下總皖一とさまざまな分野に人物がいる。こうした人たちの記録を残したいと思っています。そこで、香田さんにもひと肌脱いでもらって、下總皖一の生涯を描いて欲しいんだ。」との話がありました。

先輩からの要請は断ることができないので、「勉強させてもらう気持ちでやらさせていただきます」と言ったものの、音楽のことも全く分からず、下總皖一先生の名前は聞いたことがあるものの、どんな人物かもいつの時代に生きた方なのかほとんど分からない状況でした。その時に、星野さんからお預かりした本とネット検索が唯一の頼りになりました。その本が「下總皖一を偲ぶ会」会長で彫刻家の中島睦雄さんが書かれた『利根のほとりにII エピソード』〔大利根町（現加須市）刊〕でした。12月は、その本を眺めて1ヵ月が過ぎてしまいました。



年が明けて1月10日、会報「麗和」の取材で星野さんと同行した帰り、星野さんから「あれからいろいろ考えたんだけど、この本は香田さんに書いてもらっただけでも、「下總皖一を偲ぶ会」、特に中島先生が中心になってまとめた方がいいと思う。そこで、中島先生の手伝いをさせていただくということでどうでしょうか」と答えさせていただきました。そんなことで、著者は「下總皖一を偲ぶ会」会長の中島先生、私が補足しながら下總皖一先生の生涯をまとめるという形で、このプロジェクトが始まりました。

### 【初稿】

◆1月12日～1月18日、中島先生がこれまでに書かれた4冊の本を参考にして、毎日4時間ほどずつパソコンに向かい初稿を書きあげ、20日に星野さんへ送付しましたが、全く知ることのなかった下總皖一先生を知り、その人物像を辿っていくことはとても楽しい作業でした。

◇ ◇



### ◆下總皖一プロフィール

下總皖一（しもおさ かんいち、本名：下總覺三、1898年3月31日 - 1962年7月8日）作曲家・音楽教育者。

埼玉県北埼玉郡原道村砂原（現・加須市）生まれ。1920年東京音楽学校（現東京藝術大学）で作曲を信時潔に師事し首席で卒業。後ドイツのベルリン芸術大学でパウル・ヒンデミットにも師事して、後に芸大では癖のついた対位法で有名なブラームス・ヒンデミット系のドイツ音楽語法の先駆者となった。

1934年同校助教授。1940年文部省教科書編集委員。1942年同校教授、1956年東京藝術大学音楽学部長。門下に芸大で團伊玖磨、佐藤眞、芥川也寸志、松本民之助、山岸磨夫、プライベートで須田くにおらがいる。童謡・文部省唱歌を多く作曲した。

また多くの小学校・中学校・高等学校の校歌の作曲も手がけており、総作曲数は1200曲以上にのぼる。地味であるが堅実な音楽を残した。代表作には「たなばたさま」「はなび」などがある。

エピソード：ベルリン留学時代のヒンデミットのクラスにはハラルド・ゲンツマーがいた。同時期には木下保や諸井三郎もベルリン留学していた。

長岡女子師範の教師時代に、「血書」でプロポーズし、妻伸枝との結婚に成功した下總夫妻は子どもに恵まれなかった。養子縁組したその家族は、人が羨むほど仲睦まじく円満そのものであった。



昭和37年（1962年）胆石、肝臓がん、肝硬変の悪化で64歳にして他界した。

生まれ故郷の現・埼玉県加須市の道の駅「童謡のふる里・おおとね」には銅像が建っており、「おおとね童謡のふる里室」もオープンした。下總の楽曲が多く展示されている。

〔家族写真は右から、伸枝夫人、下總本人、養子忠敬、養女とし子、前列は孫の佐代子、希代子〕【写真と文：下總音楽事務所HP・プロフィールより】

◇ ◇

### ◇中島睦雄先生との出会い

2月に入り、星野さんにご一緒させてもらい“下總皖一を偲ぶ会”会長で彫刻家の中島睦雄先生にお目にかかることになりました。

◇ ◇

### ◆中島睦雄さん：【略歴】

1936（昭和11）加須市（旧大利根町）に生まれる。埼玉県立不動岡高校、東京学芸大学卒業。大利根町立大利根東中学校、大利根中学校に勤務-美術担当。埼玉県立不動岡高校勤務-美術担当。埼玉県美術展覧会 審査員、運営委員を歴任 現在、招待出品。埼玉県北美術家協会会長 顧問。創型会 審査員、運営委員会副委員長。

【主な受賞歴】埼玉県美術展覧会：特選 埼玉県市議会議長会長賞受賞、特選 埼玉県教育委員会賞受賞。文部省主催全国県展選抜展に埼玉県展より選抜され出品。創型会展：努力賞、奨励賞、文部大臣賞、創型会賞、同人優秀賞受賞。

【主な設置作品】【大壁画】「風に戯れる子供たち」加須市立原道小学校、「限りなく広がる世界へ」加須市立元和小学校、「白い鳥」加須市立大利根中学校。

【彫刻】下總皖一氏像、篠塚糾夫氏像、下總少年像。「泉」「むげん」「躍進」「絆」「ストライプのあるかたち」埼玉県立不動岡高校。「きらめく」「憧憬」埼玉県立誠和福祉高校。

【肖像画】大利根町名誉町民 下總皖一氏像、篠塚糾夫氏像。【現代美術展<分岐点>オープン・アトリエ 2012より引用】

◇ ◇



中島先生の4冊の本



中島先生が著した上記の4冊の本は、30年前には生誕地の人たちもほとんど知ることのなかった下總先生を身近な存在として顕彰するとともに、「童謡のふる里おおとね」という町の新たなアイデンティティを作り上げたのです。

中島先生は彫刻家として中学・高校で美術を教えられていたようで、全く音楽には縁がなかったそうです。また、昭和60年ころまで地元の大利根町でも下總皖一先生を知る人は少なかったそうです。

そんな中島先生が、地元で下總皖一先生の顕彰を始めたのは、「埼玉会館友の会」が「埼玉県の文化人

の発掘構想」を受けて、埼玉会館にいた新井陽吉さんがさまざまな地域に声を掛けたのがきっかけだそうです。新井さんが大利根町に来られていろいろな方々に声を掛けた一人に、中島先生の義兄で当時県議員であった方がいたそうです。その義兄やさまざまな方々の働きによって、大利根町が「童謡のふる里」として地元の偉人・下總先生を顕彰しているという活動になったそうです。

しかし、「百姓に音楽はいらない」などと反対する人たちもいてスタートは厳しいものがあったそうですが、その後、大利根町が「童謡のふる里」宣言を行い、さまざまな活動の結果、現在があるそうです。

中島先生は、こうした活動のスタートの頃から関わられていたそうですが、定年退職後、大利根町の教育長から「下總皖一先生の本を作りたい」という要請を受けて、先生の日記や遺されていて資料を整理し、さまざまな方々に取材を行ってまとめられたのが「野菊のように」「利根のほとりに」〔エピソードⅠ～Ⅲ〕だそうです。地元でも知られていなかった下總先生を小学生たちにも分かるようにとの思いから、平易な文章で多くのエピソードが分かりやすくまとめられています。

◇ ◇

#### 【取材】

◆2月21日、3月12日、4月9日、4月13日、4月23日、初稿をベースとして、中島先生との打合せを行いさまざまな補足を行うとともに、下總先生のお弟子さんの鎌田弘子さん、お孫さんの川浦（旧・下總）佐代子さんなどの関係者への取材を行いました。見る物、聞くことが新鮮でした。

◇ ◇

そして、2月21日には、下總先生が育った大利根というまちを中島先生にご案内いただきました。その日の記録には…。

◇ ◇

#### ●下總皖一のふる里を訪ねて！

今日は、近代日本の音楽発展に大きく寄与した作曲家であり音楽理論家、



さらに音楽教育家である下總皖一先生の取材のために加須市（旧・大利根町）に伺いました。最初に伺ったのは、「大利根文化・学習センター『アスタホール』」でした。「アスタ」は、「野紺菊、野菊」という意味の英語の「アスター（ASTER）」と、「また明日もここで会いましょう」という意味のスペイン語の「アスタ・マニアーナ」からとったそうです。下總皖一の曲で「童謡のふる里おおとね」の象徴ともいえる「野菊」と、コミュニティ活動や生涯学習などで「明日もまた、みんなこの施設に集まって励みましょう」という意味が込められているそうです。

「アスタホール」の中には、

「下總皖一展示コーナー」があり、愛用のピアノや鞆、柳行李、メトロノームなどが展示されています。また、ピアノの修理や生前の先生の写真、楽譜のコピーなども展示されています。

この施設の前には「野菊公園」があり、「野菊の楽譜を刻んだ銅板」（平成12年）と中島先生作のブロンズ像「奏でる」（平成30年2月）が飾られています。

続いて「道の駅 童謡のふる里 おおとね」に向かいました。ここでは駐車場に面して楽譜を持って歩く「下總皖一先生像」（平成10年）がありました。

続いて下總先生が通った原道小学校には篠笛を手にした「下總皖一少年像」（平成22年）があり、いずれも中島先生がイメージして造られたものです。

昭和22年のキャサリーン台風で決壊した利根川土手に建てられている「大利根水防センター」の一角には「童謡のふる里室」があり、下總先生に関する資料等が一部展示されていて、下總先生が育った空気を感じてきました。

◇ ◇



〔アスタホール内の展示コーナー〕



〔野菊の楽譜と「奏でる」像〕



〔下總皖一像の前で、中島先生と星野氏。道の駅おおとね〕



〔原道小学校の皖一少年像〕

### ◇3 度目の大利根へ

星野さんが会長を務められる“グループ 92”（埼玉県に 92 市町村あった頃に、埼玉を愛し、埼玉にこだわり、埼玉を識るために作られた勉強会、30 年近くの歴史を持つ会）の爽風の会は、世話人の皆様の相談で「童謡のふる里おおとね」を散策することになり、4 月 13 日（金）には世話人の鳥井隆一郎さん（高 11 回）とともに中島先生とご一緒に下見しコースを確定しました。そして 5 月 19 日（土）に 14 名での旅となりました。アスタホールで中島先生からご講演をいただき、その後、中島先生の作品「奏でる」（野菊公園）、「下總皖一像」（道の駅童謡のふる里おおとね）、「下總皖一少年像」（原道小学校）、さらに「おおとね童謡ふる里室」などを見学して、下總皖一先生を偲びました。途中、“さわやかコーラス”の皆さんから下總先生の童謡『長い道』（作詞：林柳波）、歌曲『なぎさに立ちて』、唱歌『野菊』（作詞：石森延男）、唱歌『母の歌』（作詞：野上弥生子）を歌っていただきました。私たちも参加して『たなばたさま』（作詞：権藤花代・林柳波）と『花火』（作詞：井上 昶）を合唱させていただきました。



最後はアスタホールで平井様の伴奏で、声楽家の濱様の歌声で『母の歌』と『野菊』を楽しみました。

◇ ◇

### ◇編集

取材や“グループ 92”の旅も終わり、再度の編集作業に入りました。

#### 【第2校】

◆5 月 20 日～22 日、取材した内容や星野さんからご指摘を受けた点を修正しながら第 2 校を作成し 31 日に星野さんへ送付しました。

#### 【編集（構成）作業、そして印刷へ】

◆7 月 20 日、星野さんと編集作業の打合せ。星野さんは、この時期に明治神宮や日比谷公園の整備に貢献された本多静六、日本で初めての漫画家である北沢楽天の作品作りにも奔走されていました。

◆7 月 22 日～25 日、小見出しや文字遣いなどについて指摘を受けて修正作業を行いました。

◆8 月 17 日、21 日、31 日、デザイナーの河口さん、出版社の星野さんとともに写真を調査。下總先生のお孫さんである川浦さんのお宅、加須市教育委員会の資料室などへ伺いました。

◆9 月 7 日、さきたま出版にて編集方針の確認が行われ、印刷に向けた最終打ち合わせとなりました。

◆9 月 15 日、中島先生からの「はじめに」などの原稿入稿、データ化

◆9 月 18 日、デザイナーからの指摘を受けて文章の修正作業

◆9 月 28 日、最終原稿をデザイナーに送付

◆10 月～11 月、印刷原稿の校正

◆11 月 2 日、中島先生との最終校正打ち合わせ

◆12 月 12 日、製本が手元に届く

◆12 月 20 日、発売

◇ ◇

★下總皖一 「野菊」「たなばたさま」などの作曲家

【目次】はじめに／①利根川のほとりで／②魅惑のオルガンの音／③自分のリズムをつかむ／④上野の杜で学ぶ／⑤音楽学校の一番が何になる／⑥覺三から皖一へ／⑦憧れのドイツ留学／⑧世界最高峰のヒンデミットに／⑨飛んでゆく靈魂／⑩丸ちゃん・ガンチャン／⑪名曲『野菊』の誕生／⑫美しい歌の数々／⑬西洋音楽と日本音楽の橋渡し／⑭音楽は楽しく素晴らしい／⑮日本の和声学の神様／⑯厳しさと優しさと／⑰文学者を夢みて／⑱音楽者として初の音楽学部長／⑲おじいこ／⑳『たなばたさま』に送られて／ゆかりの地散策／略年表／著作／作曲 埼玉県内校歌／市歌／村歌／社歌／その他／おわりに／引用・参考文献

◇ ◇

先日、星野さんにお礼を申し上げますと、「本を 1 冊仕上げるには 2～3 年かかるものですが、よく 1 年でまとまりましたね。ご苦労さん！」と言われました。私はゼロからのスタートではなく、中島先生が築かれた土台から編集という作業で参加させていただいたので、さまざまな資料を集め、時代を検証して構成を考え、1 冊の本を仕上げるとなると時間は相当かかるのです。本をつくるためにはまだまだ勉強です。それでも、こうした企画に編集者という立場で参加させていただけたことに大感謝！

昨年、ある方の自分史づくりに携わらせていただいたのも浦高同窓会の先輩を通してのご縁、今回も大先輩でもある星野さんとのご縁と、「好縁」でさまざまなことを勉強させていただいています。

先日、友人に今回の本づくりの話をしたところ「執筆の経緯を伺うと、やっぱり、人とのつながりなんですね。筆マメだけでなく、人そのものへの愛着が強い香田さんならではの役割ですね。」とお褒めの言葉をいただきました。人への愛着!? そうですね(∩o∩)

